

ごあいさつ



公益財団法人 日本テニス協会
会 長 畔柳 信雄

第31回テニス日本リーグが、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

大会開催に際しましては、日頃より実業団テニスの活動に暖かいご理解を頂き、その発展にご尽力頂いている各企業の皆様と、ご観戦ご声援を頂いている観客の皆様方のご支援の賜物と、深い敬意を表すると共に厚く感謝申し上げます。

今大会、ここまで勝ち抜き見事に実業団テニスの日本一を決める日本リーグ出場を果たされました各社の監督、選手、スタッフの皆様にも心よりお祝い申し上げます。

皆様ご存知の通り、今年ハリオ・オリンピックが開催され、期待の錦織圭選手が見事にテニス競技における96年振りのメダル獲得を果たしました。錦織選手の大活躍により、日本のテニス界はかつてない盛り上がりを見せつつあります。私ども日本テニス協会は、「フェアプレー」「チームワーク」「グローバル」を合言葉に、オリンピックをはじめとする、世界レベルで活躍できる選手の強化と育成、そして「TENNIS PLAY & STAY」の推進によるテニス普及活動に力をいれております。

そのなかで、この大会を日本における最高のテニス団体戦とするべく、各企業の皆様方と連携を保ちながら、ご理解とご協力に応えられるよう、さらなる向上に努めて参ります。

日本経済新聞社様には引き続きご支援を頂き、告知記事や試合結果の報道などテニス日本リーグを取り上げていただいておりますことは、参加企業の皆様にも大いに励みになることと存じます。

参加されます企業の皆様には、この大会を社内の絆を強める良い機会とご理解いただき多くの応援団を送り込んで大いに盛り上げて頂きたいと思っております。

最後になりましたが、ご後援を頂いております日本経済新聞社様、並びにご協賛を頂いておりますヨネックス株式会社様をはじめ多くの協力会社様、また運営協力を頂いております関係各位の皆様に対しまして心から感謝を申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ



公益財団法人 日本テニス協会
実業団委員会

委員長 矢澤 猛

国内最高峰の実業団チーム戦でありますテニス日本リーグが、日本テニス協会の数多くのテニス大会の中で、本年度最後のビッグイベントとして今年も盛大に開催出来ることをとても嬉しく思います。

全国各地域での予選を勝ち抜き、10月に広島広域公園テニスコートにて開催しました第30回全国実業団対抗テニストーナメントでの活躍で、男子は上位4チーム、女子は上位2チームに入り、見事この第31回テニス日本リーグへの出場資格を得られた実業団チームの皆さん、おめでとうございます。長い道のりではあったかと思いますが、来年2月に東京体育館で開催される決勝トーナメントに出場するには、まだまだブルボンビーンズドームと横浜国際プールで行われるブロックリーグに勝ち抜いていかなければなりません。特にこのテニス日本リーグは12月から2月にかけて、とても寒い時期に開催されます。選手の皆さんには、風邪などひかないように、体調をベストコンディションに出来るように心がけ、日頃の練習成果を思う存分発揮し、素晴らしいプレーをしていただきたいと思います。

今年はリオでのオリンピック、パラリンピックが開催されました。誰もがテニスのみならず、それぞれのスポーツでの試合に一喜一憂し、かけがえのない感動を得ることが出来たと思います。特にテニスでは錦織選手、車椅子テニスでは上地選手、国枝選手等の銅メダル獲得は我々テニス関係者にとっても素晴らしい感動を得て、一つの歴史として心に刻むことが出来たと思います。テニス日本リーグ出場選手の皆さんが所属する応援の方々も同様に、同じような気持ちで一生懸命応援をしてくださると思います。いやもっと身近にいらっしゃる方々ですので、オリンピック以上に心底から応援をしてくださると思います。その期待に応えられるように、精神的にも肉体的にも鍛え上げ、社旗を背負っての東京体育館で頑張りを見せてください。会社や家族の応援の皆さんは、きっと勝負にはこだわらず、それぞれの選手の頑張りには心からの拍手を送って下さると思います。

最後になりましたが、長年に渡ってご後援を賜っております日本経済新聞社様、ご協賛頂いておりますヨネックス株式会社様をはじめ、主管いただきます各地域協会、都県協会の皆さま、並びに関係者の皆さまにお礼を申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。